吉林からはる／＼文選手が來征
新京側必死の策戰を練る
全滿かるた大會迫る

本社主催の全滿かるた大會もあと僅かに一週間を殘すのみとなり、全新京は勿論、沿線各地のかるたファンの血を湧かしてゐるが、既に本社で正式申込を受付けた吉林、四平街の意氣込みは實に素晴らしいものがありいづれも各十名ばかりが打揃つて來征することになつてゐる、殊に吉林からは滿鮮かるた界の第一人者としてその天才的技倆を謳はれてゐる文選手が家の子郎黨を引具して全滿選手權の榮冠をめざしてはる／＼來征することになつたことは一層地元新京側を刺戟して多大の衝動を與へてゐる、文君はその昔滿洲かるた界が華かなりしころに出場して一度もひけを取つたことなく、いつも優勝の榮冠を勝ちつづけた斯界の大强者であるがこれに對する新京側の顏觸れは中江（保線區）足立（新京驛）祝園（滿電）宮本（市中）野中（電々會社）、深澤（金融組合）熊代（鐵事）等々の面々で榮譽ある優勝盃は是非でも地元新京において奪はうといふにあり、寧ろ技量よりも意氣を以て當らうとするところに大に期待がかけられてゐる

かるた大會へ賞品寄贈申込

來る二月十一日料亭鳳花で開催される本社主催、全滿かるた大會は意外の人氣を得て各方面から多大の聲援を得てゐるが右大會趣旨に共鳴してわざ／＼本社へ賞品寄贈の申込があり、本社でも快くお受けすることゝしたが四日正午までの分は左の通りである

- 東一條通　金城靴店　お座敷用高級火鉢
- 吉野町一丁目　酒井商店
- 大黑葡萄酒大瓶二本　東二條通　西村洋行
- 姿見鏡一個　老松町二丁　天野商店
- タオル一打　吉野町二丁目　マルカ商店
- 黑皮製スリツパ三箱

警乘員　近く配置さる

鐵路總局では最近列車事故の頻々として起るのにかんがみ乘客の生命保護と、列車の安全をはかるため京圖線、瀋海線、拉賓線およびその他の列車に滿洲國軍と昨年の駐滿日本除隊兵から〇〇〇名を募集警乘させることゝして奉天で短期間の教育を行つてゐたが近く各線にこれを配置警乘させることゝなつた

兒玉事件の第三日公判續き

〔大連爲通〕

裁判長　これで殺つたのか
中薗　さうです

と述べ、十一時五十分一先づ休憩、午後一時卅分再開、青柳殺しは自分一人でやつたとぶちまけて、すつかり落着いた被告は、裁判長の訊問にもはつきりと答へる

裁判長　匕首を所持して以來青柳佐藤を殺害する意思はあつたのか
中薗　ありません
裁判長　兒玉に殺害すると云つたところ、同人も宜敷いと云つたさうだが
中薗　さうです
裁判長　それなら殺害の意思はあつたのではないか
中薗　おとなしく話をしない時はなぐらうと思つてゐました

とどこまでも謀殺でなく、兇行は偶發的であることを强調せんと試みる

裁判長　被告は青柳を刺した時兒玉は青柳に組付いてゐたさうだが
中薗　なぐり合ひをしてゐました
裁判長　死體には十八の傷があつて、被告が五つ突いたのなら、殘りの十三は誰れが突いたのだ、本當のことを云へ
中薗　よく記憶はありませんが、私が突いたのだらうと思ひます
裁判長　兒玉が刀を貸せと云つた時、兒玉も突くのだと思つたか
中薗　さうです
裁判長　お前が刀を兒玉に渡して玄關に降りる迄に時間があつたか
中薗　殆んどありません

斯くて裁判長は被告席に兇行當時のゴザを敷かせ中薗にさうして突いたかと當時の動作を實際に示させる

裁判長　誰れが先に二階に上つたか
中薗　私が先きだつた樣に思ひます
裁判長　二階に上つてから誰れが責任を負ふかといふ話が出たか
中薗　私が一切の責任を負ふと申しました
裁判長　頸動脈はきれいに切れてゐるがお前が切つたか
中薗　私が切つたかも知れません

と曖昧ながら博士が兇行に關係なきことを述べ、これで一應兇行當時の審理を終つた

裁判長　女中の監視を命じたのは誰れか
中薗　私です
裁判長　お前はその時女中が知つてゐては困るから殺さうと言つたさうだが
中薗　それは死體を片付けた後に申しました
裁判長　勝美を呼んで女中のことを聞いたか
中薗　聞きました、女中はあまり良く知らない樣でしたけれども、私は不安でしたので女中と關係を付けて口止めしやうと云ひましたけれど、兒玉さんはこれを止めて滿洲チブス菌をチヨコレートと一緒に喰はせて殺すからそれは止めよと云つたので止めました
裁判長　死體の傷口は何時縫つたか
中薗　その晩です
裁判長　死體の處分について相談したか
中薗　しました、ふとんカバーに入れて外に持出さうとしましたが、ばれ易いのでこれは止め、髮油を目、口鼻等に塗り、油紙に死體を包みました、而してトランクには入りませんし、フトク新聞で知つたバラバラ事件の前例により死後十二時間を經過すれば硬直が直ると聞いてゐましたので、青柳の片足を背にかけ腹部を踏んでまげて縛りましたが、それは私にはやれなかつたので兒玉さんがやりました
裁判長　死體はそれから何うするつもりだつたか
中薗　屋敷内の倉庫の床下に埋める相談をして見に行きましたが、コンクリートのたゝきで掘れなかつたので止め、次で臺所に埋めやうと板をめくらうとしたが出來ないので止めました
裁判長　七日被告は勝美と心中を企てたさうだが
中薗　それは八日です

と兇行以來良心の苛責に責めさいなまれ、此日旅順で勝美と心中して罪を清算しやうと遺書迄書いた芝居がかりの心中準備を陳述

裁判長　滿洲お君の家を訪ねた顛末は
中薗　豫ねて知合のお君の家に行つた時、偶然此處に死體を埋めてやらうと考へお君に他所の犬を殺したからお前の家に埋めさせて呉れと頼み、お君も承知して呉れたのでその日二人で出かけ、スコツプで床下を掘つて見ると樂に掘れました
裁判長　兒玉にはそのことを話したか
中薗　八日電話で打合せ、九日兒玉が外に行つたところ勝美と女中は外出してゐましたので屍體をトランクに詰め一臺馬車を雇ひ引越荷物の如く裝つて出ました
裁判長　穴は誰が掘つたか
中薗　初めは私が掘つて更代で掘りました
裁判長　兒玉とは何處で別れたか
中薗　西廣場で別れました
裁判長　屍體の處分に就き兒玉と相談した時外に遺棄場所を選定したことはあるか
中薗　旅大道路の凌水寺分岐點です、兒玉さんは競馬場附近が良いと云ひました
裁判長　どうしてそれを止めたか
中薗　まずいと思ひましたが、内地行きの定期船に持込み海中に棄て樣とも相談しました
裁判長　滿洲お君にチブス菌を飲ませたら高熱でしやべる樣なことはないかと兒玉に言つたか
中薗　そんな事はありません
裁判長　十日被告は菌を貰ひに行つたさうだが呉れたか
中薗　貰ひました
裁判長　それをお君に飲ませたか
中薗　自分で飲むつもりでしたが恐ろしくて止めました
裁判長　それは實際は菌ではなかつたさうではないか
中薗　私は菌だと思つてゐました

次で勝美との道行きから逮捕される迄の模樣を聽取り、次で裁判長は勝美に起立を命じ對質訊問に入り

裁判長　バットと短刀を持つて來た時、青柳と佐藤を殺すためだと云つたか
勝美　始めはおどす心算だと云つたと思ひます
裁判長　後で殺すと云つたか
勝美　左樣で御座います
裁判長　お前はそれに贊成したか
勝美　はい
裁判長　夫は刀を貸りて青柳をやつたと聞かなかつたか
勝美　何も聞きません
裁判長　青柳をやッつける相談は何處でしたか
中薗　勝美の家を出てバスの停留所迄行く間です
勝美　私はその間は何も聞きません
裁判長　兒玉の手の血は？
勝美　兒玉自身の血であると思ひます
裁判長　中薗の云つたことに違ふ事を全部云つて見よ
勝美　女中が知つてゐるだらうから殺さうと、菌か云つたのは事實です、私は女中にチブス菌をのませることにも反對しました

と述べ、三日間に亘る事實審理を終り、次で田中陪席判事が檢事の意思を代表して

裁判長　中薗は青柳を刺す時兒玉に制止された覺へはないか
中薗　ありません
裁判長　協力して呉れてゐるといふ氣持はあつたか
中薗　ありました
裁判長　中薗が青柳と佐藤を殺すといふ氣持はずつと前から續いてゐたか
勝美　さうだらうと思ひます

右終つて高井檢察官は兇行當夜三人が組合つた情況につき細かく質問し

檢察官　三人組合つて二階降口にかかつた時中薗が何故止めるかと云つたのを聞いたか
勝美　下の方でその聲を聞き次で「見ては破滅だ」といふ兒玉の聲を聞きました

次で檢察官は中薗に對し兇行後刀を兒玉に渡したと云ふことについて質問し、同五時半と閉廷した

京圖線明月溝驛で
列車衝突　即死五名

四日午前三時ごろ京圖線明月溝驛構内で清津發五十二列車の先驅裝甲車が同驛に進入の際同驛に停車中の貨物機關車に激突轉覆し裝甲機關車の乘務員五名は即死した、列車は三十分にして復舊した、原因は目下取調べ中

恩赦令公布は二月十一日

〔東京國通〕政府では宮中喪明け、民間五、一五も判決終り司法省でも近く調査完了するから恩赦令公布は紀元節の二月十一日と内定した、恩赦範圍は前例を酌酙し昭和三年の御大典當時の恩赦に準じかなり廣範圍の恩赦減刑復權で勅令即日公布と方針決定した

恩赦令の範圍

〔東京國通〕政府は近く司法省立案の恩赦に關する勅令を閣議決定上奏御裁可を經て十一日發令するが原案は左の樣な減刑令と復權令である

一、減刑は二月十一日前に刑の確定せるものとす
一、死刑の者は無期懲役とす
一、無期懲役は二十年の有期懲役とし無期禁錮は二十年の有期禁錮とす
一、有期懲役又は禁錮にして刑執行を始めぬ者は刑期の四分の一を減じ、刑執行を始め刑期の半分になつたものは殘りを半分に減ずるものとす
一、特別の罪の者は減刑せず
一、復權も二月十一日より以前の者に對して付ふ

右の結果、死刑となつた佐郷屋留雄は無期懲役九、一五事件の軍部關係は減刑を受ける治安維持法違反者も減刑さるるが、皇室に對する罪尊族親殺人罪、强盜の罪、軍規保護法違反、惡質の通貨僞造罪は恩赦を受けない

深夜の職場襲撃（下）
拔身の拳銃を胸元へ！待て！
警官の卷　非常警戒

午前一時日本橋派出所を襲撃した、岡さんが獨りで忙しさうに日誌をつけてゐる、フト黑板を見ると日本橋通り大利公司三人組强盜の件と書かれてゐる

「又强盜ですか」
「イヤあれは先日のですよ」
「然し他の方は？」
「今警戒で出てゐます」
「非常警戒ですか？」
「エー四人出てゐます」
「何か事件があつたのですか」
「イヤ、年末警戒です」
「四人も出てゐては交替も出來ませんね」
「エー一時間交替に寢ることになつてゐますが、非常警戒のときはそれも出來ません」
「こゝは場所柄事件が多いでせう」
「エー新京ではこゝが一番です、次が朝日通り、興安大和通の順です今晩も今までに交通事故三件、料亭カフエーの喧嘩や、その他が五件ありました」
「然し女が時々訪ねて來るので良いでせう、何でも時々用事もないのに電話をかけたり呼出したりして素見すさうですが」
「イヤ、そんなことはありません、そんなことをしてゐると誠です、油斷してゐると本署から巡視が來ますからね」

と辯明これ努める

×……×

「非常線はどこに張つてゐるのですか？」
「さあ記念館裏通りぢやあないですかね」

そこで記者は、派出所を出て裸てついて道を暗い記念館裏に……

黑い影がウゴメイてゐる、記者が近付くと拔き身の拳銃をつきつけた

「待て!!!」

背筋を冷いものが走つた

「ハツ」
「誰だ!!!」
「新京日日の職場襲撃隊です」
「ああさうですか失禮／＼」
「何か良いものがかかりましたか」
「一向かかりませんね、醉拂ひが通る位なもんです」

と向ふから二人の男が歩いて來る、滿人らしい

四人の警官は拔き身の拳銃をつきつけた

「上れ」
「アイヤー」
「誰だ」
「探――」

二人の警官は三尺ばかり離れて拳銃を擬してゐる、他の二人は件の二人の上衣から下衣まで全部手を觸れて身體檢査をした（寫眞は不審訊問）

人氣彌や湧く　敵は太平洋！
新京キネマ連日滿員の盛況

待望の大海戰映畫＝「敵は太平洋」は周知の如く本社後援を以て昨三日より新京キネマに公開されたが日本海國男子の意氣血湧き肉躍る凄慘な場面帝國艦隊百隻の艨艟堂々海を壓し爆擊機戰鬪機其他飛行機活躍巨砲の亂射魚形水雷の發射行動等未曾有の海戰場面〇〇を相手として帝國大捷に至る場面壯觀は立錐の余地無き大入の觀衆を魅了し白熱的人氣を呼んで居る彼の滿洲娘お辰の敵地において活躍久住大尉吉野中尉の奮闘そして殊勳者の遺骨を抱いての悲しき凱旋は全く他に見られぬ場面名映畫である同時に上映する西洋物ータイガーシヤークは怒濤逆卷く大洋の眞只中において餓ゑる虎鮫と人間死の鬪爭決死的體驗映畫であり之に時代劇をも加へての名映畫揃ひのこととて絕對見逃せぬものとして人氣を博してゐる

街の日記

人騷がせな酌婦

城内西五馬路料亭待月こと原清一氏方抱へ酌婦文香こと郡築タマコ（二六）は三日午前十時ごろ買物に行くと稱し家を出たまゝ歸宅せざるため家人は新京總領事館署に搜査方を願ひでたが四日午前一時三十分ごろほかりつと歸宅した

新京驛長招宴

新京驛長高澤公太郎氏は三日午後六時からヤマトホテルに各代表百余名を招待、恒例の新年宴會を催したが宴酣なる頃高澤氏の挨拶があり之に對し來賓を代表して大村關東軍交通監督部長謝辭を述べ寬いで歡談八時頃散會した

拾ひもの

▲八島通四十番地石川洋行方加藤良房氏は三日午後十一時ごろ同洋行前路上で黑皮製二ツ折財布一個在中現金一圓十七錢を拾つた

落しもの

▲梅ケ枝町三丁目大森醫院內藤岡豐氏は三日午後七時三十分ごろ自宅前で刺繡入り二ツ折財布一個現金六圓七十錢余を落した
▲吉野町三丁目八番地ノ二田町テルさんは三日午前六時三十分ごろ自宅前から浪速町二丁目に行く途中羽二重シボリ風呂敷包一個在中財布現金三圓、戶籍謄本一通認印一個封書一通黑綠目一個を落した

盜難屆

▲三笠町一丁目十六番地德島豐作氏所有自轉車一台を三日午後一時ごろ朝日通五十九番地先路上で窃取された

偽造五圓紙幣

二日午後七時ごろ二十六歲前後の內地人男が新京百貨店洋品部渡部友吉氏方を訪れ洋品四圓を買ひ五圓紙幣を出し一圓の釣錢を受け取り店を出たが客が歸つた後で五圓紙幣を見ると一圓紙幣を五圓に僞造してゐることが判明し直に新京署に屆けでた

天氣と氣温

明日の天氣北西の晴けふの氣溫最高零下六度五最低零下十七度六

けふ立春　零下十七度六

今日は立春！鬼（陰氣）を退け福神（陽氣）を迎へる節分によつてめくられた、カレンダーのうえでは三四年の春が訪れたわけであるが今日の溫度が零下十七度六で本年に入つては三十一日の十七度一に次ぐ高い溫度朝の陽ざしにも漸く和かな微笑をふくみ風にまだ劍をふくむとはいへなんとなく春の香をもたらし初めて永かつた滿洲の冬にも重い上着一枚をぬいだやうな朗かな感じをあたへるやうになつた

列車中の盜難

去る二日午後十時新京驛午後十時發旅客がオーバを盜まれた旨を列車係員に同日午後十時五十分ごろ屆け出た、被害者は原籍奈良縣現住所奉天春日町三丁目時計商中谷宇三郎氏（四四）で、盜難品は冬オーバ桃色ラクダ地に白黑の斑點のある綿毛皮裏付水獺襟付時價二百圓の品物で本人の申出によると犯人は被害者が新京驛で列車停車（午後九時五十分から十時まで）の中同列車二等寢台車上にオーバを置き隣座談席で見送人と話中これを奇貨として窃取したものらしいと

高女五年生　警察見學

三日午後二時から新京高等女學校五年生五十名が卒業を控へ社會學研究のため新京署を訪れ各係につき參觀をなし高山署長から警察署の任務並に復雜な事務の説明を聽き終つて各係主任から詳細に事務の説明があつた

第卅四期決算報告

昭和八年十二月三十一日現在

一、貸借對照表

科目	金額
資産ノ部	
拂込未濟株金	三〇、〇〇〇・〇〇
所有建物	三七、六四〇・一四
營業用什器	二、三三〇・〇〇
銀行勘定	六一、三五六・四四
振替貯金	二三三・九八
現金	一、九九〇・一六
仲買人勘定	一三、六五六・八八
未收金	九〇四・六六
假拂金	一、一九四・八二
合計	一三八、九五五・七七
負債ノ部	
資本金	五〇、〇〇〇・〇〇
法定積立金	三、九五〇・〇〇
別途積立金	三、〇〇〇・〇〇
諸償却積立金	三、三〇〇・〇〇
退職手當積立金	四、八〇〇・〇〇
前期繰越金	五三三・〇八
荷主勘定	七、三〇七・三一
未拂金	六、六三一・四四
假受金	二、六七九・一四
受入保證金	五、七〇五・五五
社員身元保證金	三、四〇〇・一一
借入金	一五、〇〇〇・〇〇
當期純益金	一三、八二四・三四
合計	一三八、九五五・七七

二、損益計算書

科目	金額
利益ノ部	
手數料	四三、三二四・三四
家賃收入	五、〇二七・〇五
收入利息	四三五・六三
運搬收入	二、〇一六・五五
雜收入	二、三七三・三八
合計	五三、一七七・一五
損失ノ部	
支拂利息	四二八・九一
仲買人步戻金	六、五三六・〇二
建物償却費	一七、五五〇・〇〇
什器償却費	八八〇・〇〇
雜損	三五〇・九一
營業費	一三、二〇一・八八
當期純益金	一三、八二四・三四
合計	五三、一七七・一五

三、利益金處分

一、金五萬七千五百七十七圓十五錢也　當期總益金
一、金四萬三千七百五十二圓八十一錢也　當期總損金
差引
一、金一萬三千八百二十四圓三十四錢也　當期純益金
一、金九百三十二圓八錢也　前期繰越金
合計
一、金一萬四千三百五十六圓四十二錢也
之ヲ處分スルコト左ノ如シ
一、金一千圓也　法定積立金
一、金九千圓也　別途積立金
一、金一千五百圓也　諸償却積立金
一、金三千五百圓也　社員退職手當積立金
一、金一千二百圓也　株主配當金
一、金一千三百圓也　役員償與金
差引
一、金八百五十六圓四十二錢也　後期繰越金
右ノ通リ候也

昭和八年十二月三十一日
新京市場株式會社
取締役社長　荒木章
取締役　丸山直助
同　下德直助
同　支配人　砂京滋一
監査役　堀義雄
同　西村滿兵衛

前記各項ノ調査ヲ遂ゲ其ノ正確ナルコトヲ承認候也
昭和九年一月二十九日

追而監査役堀義雄辭任ニ付富田租選任就任ス

慶安実聞 艶魔地獄

（百六十五）

玉水三郎

（畫）長谷川小信

不可解（二）

奥村権之亟は、昨日から三つの疑問を抱くやうになつた。

一は道灌山の縁で、何者とも知れず、五人の暴漢に襲はれた事。一は丸橋忠彌が紀州家へ奉公替へせよといふ事。今一つは大川家との縁談を、本人の自分に一言の挨拶もなく、媒酌人立花掃部が結納延期をした事……何としても其眞相を知るに苦しんだ。

先づ第一に今朝曾ふ約束の、丸橋に其一を問ふより外はない。

金井半兵衛には、縁談に就ての實否を調べるからと今日一日の猶豫を求めた。

半兵衛は、父が莫逆の友であり、今日まで長上として仕へ、且朝夕世話を受けてゐる大川郁之進に對し、奥村の返辭によつては、立派な申開きが立つので、大いに喜んでゐた。

それから半時程經て丸橋忠彌は、悠々道場へ來た。

「オ、奥村氏、夜前の約束、遅刻して濟まんであつた」

「コレへ先生、前晩は夜更けて、御休息のお妨げ致しました」

「何の〳〵、あれから又一酌やつたので、今朝は朝寝してな、アツハヽヽヽ」

それから奥村を麾いて、奥まつた一室へ連れて來た。人なきを見定めた丸橋は、低聲に語り出した。

「夜前突飛な申分で、定めし貴殿案外に思はれたであらうが、實は貴殿の器量を見込み、由井氏が是非紀州家へ推擧致したい。紀州家に於ては唯今有爲の人材を集めて居るが、奥村氏程の若侍はない。伊豆守殿に使へらるゝよりは、お家柄は申すまでもなく、又禄高も厚くお召抱へ相成る事ゆゑ、貴殿お身のお為と斯様に申される。拙者に於ても勿論同感、何と御奉公替への御所存はないか、改めてお尋ね申す」

前夜の言葉を稍詳細に説明したので、権之亟は恐縮して、

「ハツ、有難い仰せにござります。文武兩道何れも未熟の若年者を、兩先生の過分なる御賞讃。且尊きお家柄への御推擧、早速貴命に從ふべき處、手前は藝州浅野家の出、兄が亡父の跡を襲ひましたれば、手前は獨り出府し、松平家に仕へ居りますが、主君に於かせられても、不肖のそれがしに百石の高禄を與へられ、優遇を受け居りまする事ゆゑ、手の掌返す奉公替へもなり難く、何卒此御懇望は今日より一ケ月間、御猶豫を願ひまする。一應は廣島なる兄にも申聞けたる上に致したく、此段先生より由井先生へも、然るべくお傳へ願ひまする」

丸橋は不興顔で、

「奥村氏、貴殿は常に仰せらるゝ處では、何事も一身上總て、自分一存で決する由を申され、現に金井半兵衛お勤めの縁談も、兄上へのお問合せもなく、御一存で見合もなされ、御婚約も成立つたと承はつて居る。それに何ぞや此一儀にのみ限つて……」

「イヤ〳〵丸橋先生、御道理の仰せにござりますが、松平伊豆守公へ推擧致し呉れたるは、兄が劍道の友、同じ藝州藩士で伊東祐五郎と申す者。それへの義理もあり一應は……」

「フーム、然らば仰せの通り、一月の間をお待ち申さう。成るべく早く否か右かお聞かせ下さい」

暴漢？

紀州公 結納延期

月曜 二月五日　丁未 月二十二日　先負　執　張宿

●一白の人　氣力衰へて半途に倒れ再起覺束なき危險日　乙さ辛さ壬が吉

●二黒の人　萬事緩々さ進めば安全なれご急げば蹉跌す　丙さ丁さ申が吉

●三碧の人　勢に乗る時は急轉ゑを來たすことあるべし　丁さ辛さ亥が吉

●四緑の人　一家心を協せて家業に勵まるべし他事は凶　丙さ辛さ戌が吉

●五黄の人　成功を願はゞ急がざるに如かず飲食亦注意　己さ戊さ寅が吉

●六白の人　信用を確保し人和深厚なれば益々向上發展

乙さ申さ庚が吉●

●七赤の人　心に鞭うち氣を引締めて努むれば願望叶ふ　申さ辛さ寅が吉

●八白の人　喜憂交々至る半吉半凶の日旅行轉宅普請凶　甲さ申さ戌が吉

●九紫の人　長上に逆らひ身の不安を招く日金談控へよ　丁さ戊さ壬が吉

大阪商船出帆

門司、神戸（大阪）行

×三等船客設備船

（午前十時大連出帆）

うすりい丸　二月　六日

ばいかる丸　二月　八日

亞米利加丸　二月　十日

はるびん丸　二月十二日

うらる丸　二月十四日

×たこま丸　二月十九日

香港丸　二月十七日

×しあとる丸　月　日

●切符發賣所

滿鐵沿線主要各驛及各地ジヤパンツーリストビユーロー案内所

船車連絡切符（主復切符ハ汽車二割引、汽船一割引、通用期間二ケ月）

大連、門司、神戸間乗船切符（往復切符ハ復路運賃二割引通用期間三ケ月）

●專屬荷扱所

各地國際運輸會社支店

大阪商船株式會社

大連支店

電話四一三七番

奉天出張所電話四〇八九番

新京出張所電話二二一六

新京日日新聞社

營業部

電三三〇〇番

歯科 口腔科

錦町二丁目

早川醫院

電話三二九六番

診療時間　自午前九時至午後五時　日曜祭日　午後休診

新京にも……

「東氣分の……」

嬉野へ!!

一度お越しを願ひます

料亭 嬉野

三笠町三丁目

電話三八三〇番

信用第一

シボレー フォード 各國車

在庫豐富

鳥羽洋行自動車用品部

專門店 奉天千代田通三九 電話五三一〇

專門店 新京日本橋通九一 電話三二三四

機械工具

煖房材料

水道用品

衛生陶器

油脂塗料

新京日本橋通六〇

東華洋行

電話三二五七番

シックな肌色・モダンな濃肌色

フレッシュなクリーム肌色

クラブ白粉

麗朗モダンなクラブ化粧

あたし このごろ ラッキーよ

あたし このごろ ラッキーよ

クラブ白粉 つけてんの……

明るいお化粧 心も冴えて

どこへ行ってもこぼれる笑ひ

あたし このごろ ラッキーよ

一番よくきくアレ止め化粧料クラブ美身クリーム・品質第一位すばらしい香りのクラブ美の素石鹸

お待ちかねの……

英國

リプトン紅茶

……が參りました

和洋百貨

金泰洋行

電話 三一八九番 三一五八

歯科一般 口腔外科

田中醫院

新京吉野町二丁目十四番地

電話三七〇九番

京城歯科 醫學士 田中 勵

診察時間　自午前八時至午後六時　（日曜祭日午後休診）

新京日日新聞 夕刊 二月四日(日)

ドル貨舊平價以上に大暴騰を示す
今後大動搖を豫想さる

【東京國通】三日の爲替は對米二十八弗四分の三乃至八分の七見當で二日午後に比し約一弗近くの大暴落を演じて三ケ月振りに二十九弗臺を

『破り』　これに對し買手は形式的に二十九弗四分の一買を唱へたのみであつたがその後上海の日米クロスが二十九弗十二仙見當に保合を報じたため引際には氣配稍々持直し二十九弗丁度の賣唱へも出て來た對英は正金一志二片八分の一と變らず、市中また一志二片十六分の三乃至四分の一賣十六分の五買と保合を唱へた、尙前記の如くドル價が舊平價近くまで大暴騰を示したのは平價切下げによる弗貨安定以來開始された弗資金の歸還運動及び思惑資金の流入作用が愈よ強くなり、米政府が廿億弗の爲替安定基金を一部使用しても殆んど效果がなかつたことを證明して居るものであつて今後この

『反動』も來るであらうから何れにせよ可成り大巾の動搖を演ずるものと觀られて居る

奉天に大規模の糧棧

實業部に於ては最近各種糧石の海外輸出不振のため糧價の暴落し、一般農民の疲弊甚しいので、糧價の暴落を防ぎ農民の救濟に資するため今回大興公司に命じて大規模の糧棧を奉天に設立し、各種糧石の大量買付けを爲すこととなつた、尙右糧石の買付け資金は總て中央銀行奉天分行より支出される筈である

日清汽船 三年振りに貨物を受附く

【漢口三日發國通】滿洲事變以來救國會の排日運動のため日清汽船による日貨及土貨の移出入は今日迄全く杜絶の狀態であつたが、最近當地軍事當局に於て救國會の解散を命ずるに至つた結果、日清汽船は三年振りで貨物輸送の申込みを受けてゐる

片貿易より相互貿易に
躍進する滿洲國

滿洲國の帝制實施聲明以來各國の

『同國』に對する再認識的態度濃厚となり經濟的には領事館の復活、經濟調査員の派遣等となつて現はれて居るが滿洲國にあても自國產業が漸く國際經濟の軌上に乘りつつあるを自覺し從來の片貿易より相互貿易に躍進すべく種々考慮を拂ひつつある、即ち實業部では曩に來京せる駐日獨大使館商務官クノール氏が滿洲國政府を訪問し「大豆の輸入に對し獨逸特產品を輸出したし」と懇談せるを端緒としてその後各關係機關と相互貿易につき協議を進めて居るが大体意見一致しその具体化として先づ貿易通信員を取引國並に主要各國に派遣し販路の擴張、國際經濟事情の調査、相互貿易品の研究等を行はしむることになつた尙その時期は七、八月頃となる模樣だが第一回の派遣は

『上海』ベルリン、ロンドン及び日本主要各地である

二十億弗の弗安定資金を出動
平價切下反響も良好ならず

【ワシントン二日發國通】米國が弗の平價を切下げ更に財務省が自から自由國際市場を建設したにも拘はらず世界市場の反響は思しくないので米國政府では弗高騰の傾向を逆轉せしめ弗價を米國の商業に有利な程度迄引下げるため愈よ二十億弗の安定資金を出動せしめる用意を整へて居ると傳へられる、而して平價切下げ第二日の弗は全く金本位制原則を無視した感があり、これが爲め對外爲替相場はロンドンに於て二十四弗十仙、パリでは三十三弗三十五仙の安値で金塊を買ひ得る點に達したがこれを米國に送つて財務省に賣つてもその買値は三十五弗であるから相當の利益を擧げ得る譯でありこれがためロンドン、パリよりも米國に向け多量の金の積出しが開始されるのだらうとの觀測が最近頗に昂つて居る

地方官異動

【東京國通】

靜岡縣內務部長　安藤狂四郎　補東京府內務部長

兵庫縣警察部長　足立收　補靜岡縣內務部長

尙兵庫縣警察部長の後任は未定

大同二年租稅收入總額
一億二千七百萬圓の巨額に達す

滿洲國の財政狀態は順調な進展振りを示しつゝあるが、大同二年一月より十二月に至る一ケ年の租稅收入總額（官業並に官產收入を除く）は一億二千七百七萬圓に達し、大同元年度總額八千五百三十七萬八千圓に比し、四千百六十九萬二千圓の激增を示し滿洲國財政の大躍進を如實に物語つて居る、租稅種目別に列擧すれば左の通

（單位千圓）

種目	金額
關稅	七〇、二四二
順稅	四九九
鹽稅	二〇、七九五
田賦	三、五二八
契稅	一、四一八
出產稅	八、二二四
礦稅	六四二
營業稅	四、二一五
牲畜稅	一、二一一
於酒稅	三、〇四一
統稅	九、八六四
印花稅	一、八八四
雜稅	二〇〇
雜收入	一、三〇七
計	一二七、〇七〇

カリームスカヤに白系パルチザン蜂起

【奉天國通】當地某所に到着した情報によれば「カリムスカヤ」を中心に東西に農民を中心とする白系パルチザン蜂起し、次第にその勢力を擴大しつゝあり、又同暴動中には赤軍の一部が參加し居る模樣でソ聯當局は極度に狼狽してゐる

自一月十六日至一月廿二日視察 拉賓線狀況（五）

新京鐵道事務所營業係　根占好人

へ、東行（浦鹽）貨物多き理由　東行多きは北鐵がポクラに於ける積替人夫を增加し且つワツサルド、ドブレス、エエフ、カバルキン等の大荷主に對し運賃秘密割引を爲しおるに因る　割引額は一キロトン大留四〇と傳へらるるも荷主及數量に依る多少の差ある模樣にして確實なる率は不明なりと云ふ

ト、南行少なき理由　イ、大豆は東行に奪はれ且つ大連相場不引合なること　ロ、製油原料は拉濱線經由に依るを有利とすること　次上に依り南行貨物は當分增加の氣勢なし

チ、拉濱線貨物積卸料率　普通貨物一車扱一キロトン各一五錢（國幣）小口扱一〇〇キロトン各四五錢（同）

ヌ、拉濱線收貨策　未だ其れを實施しおらざるも北鐵が策動する場合は東部線及南部線の背後地より馬車に依り拉濱沿線に收貨する計畫あり　拉濱線としては現在に於ては輸送力なきを以て自から收貨するが如き模樣なし

ル、拉濱線經由大連發雜貨の引受運賃（小口扱）　假營業後未だ取扱なきか貨率を貨主に內示せるを以て本貨率に依り採算の上漸次取扱增加するものと豫想しおれり　貨率及比較（金對國幣を同一と見たる場合）

	砂糖	古新聞	亞鉛鐵板	粗布
大連發	三三、〇〇	三六、〇〇	四三、〇〇	四五、〇〇
淸津發	四三、〇〇	三四、〇〇	三九、〇〇	三六、〇〇
大連發（北鐵）	三六、八〇	四四、四〇	四八、四〇	三六、七〇

拉濱積替、卸賃外に五〇錢を要す

ヲ、各線の貨物運賃計算最底重量　其の他の貨物に對しては未だ引受運賃の內示なし

	豆粕	麻子	大麻子	蘇子	胡麻
拉濱線	三〇キロトン	三〇	三〇	三〇	三〇
京圖線	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
北鮮線	二〇	二〇	一八	一八	二〇
滿鐵	三〇	三〇	一八	一八	三〇

ワ、拉濱線の本營業開始　七月一日建設事務所より滿鐵（呼海）に引繼人員の配置其他の準備を行ひ八月一日より本營業開始の豫定なりと云ふ

カ、周家、拉林、五常、山河屯、水曲柳驛發淸津、雄基着貨物內地着通扱　濱江、三棵樹發は引受しあるも上記驛發に關しては未だ內示なし依りて現在は下記に依り取扱おれり　全部後拂、表日本港着にして國際の引受直通證券を發行したるもの

	拉濱線	京圖線	北鮮	北鮮料金	計
周家發	八、七三	九、六九	三、三六	四〇	二二、一七（三五、一一）
五常	五、六六	九、六九	三、三六	四〇	一九、一二（三一、六八）
山河屯	四、六〇	九、六九	三、三六	四〇	一八、〇四
水曲柳	三、五三	九、六九	三、三六	四〇	一六、九七
拉林	七、四〇	九、六九	三、三六	四〇	二〇、八五（三三、九八）

三棵樹濱江發引受運賃（金）二二、六八　濱江、三棵樹發に對し五常は一、〇〇安きも周家拉林發は高率となる

發驛積込及淸津着卸は貨主負擔とし其の他は鐵道の負擔とす　運賃各線所定の通、品名穀物及種子

北鮮向檢査大豆は通知書及手票面に淸津雄基と併記し圖們にて數量の按分に依り何れかを抹消すること

ヨ、濱江、三棵樹發貨物特定運賃（國幣引受）

一、大連打切	穀物及種子	（豆粕なし）	三三、〇一
安東向	同	（同）	三四、〇一
營口向	同	（同）	三五、〇六

國際は一キロトン二〇錢の手數料を貨主より收受

日滿悲曲 生命線を行く（七十九）
（舞臺上演 上映）　國友雄吉（荒川芳三郎畫）

賣られた彼

陳は、やはり入口に衝立つたまゝ答へた。

「街の騷ぎといふのは、お頭の惑大人が、たうたう滿洲國に寢返りを打つたのだ。日本人は見當り次第、鏖殺にしたつて構はねえといふんだ。お醫さまで俺たちも、久し振で、女と金にめぐり遇へるんだ――ところで、此奴はどうだ、手前に買つて貰えてえんだが――」

源は、いまゝで何の氣も付かなんだが、さう言はれたので初めて氣が付くと、陳は、一人の小兒を、小脇に抱へてゐるのだつた。

「なあんだ。餓鬼を連れてゐるのか、暗くつて、ちつともわからなかつた。それがどうしたといふんだ」

「いゝ小兒があつたら、そいつに腕を仕込んで、一ト儲けしたいといつてゐたじやねえか。そうれ見ろ、いゝ小兒だらう。どさくさ紛れに、いま街で浚つて來たんだ。どうだ買ふ氣は無えか――？」

陳は、茂彥の顔を、灯の中へ突き出して、まるで商品でも見せる行商人のやうな振をした。源はうなづいた。

「ウムさうか。なるほど、好い兒だ、買つても宜いが、値段は、どうだ」

「さうだ。手前と俺の仲だ。大負けに負けて、五十元ではどうだ」

源は、びつくりした。

「冗談ぢやねえ、五十元だなんてそんなベラボウな相場があるもんぢやねえ。譯は落ちて居た物を拾つて來たやうなものぢやねえか。そんな因業なことを言はねえで、どうだ、三十元で手を打たう。俺にちやうど、それだけの錢があるんだ。イザコザ無しに負けて吳れよ」

「三十元も持つて居るとは豪氣ぢやねえか。よし、現金取引なら、きれいに三十元に負けてやらう」

斯ういふ風にして、茂彥はたうたう、源の手に買ひ取られたのであつた。

人間の子も、野良犬の子も、同じやうに心得てゐる支那人無頼のことだから、小兒の賣買は、別段珍らしいことでも無い。

そこで源は、早速茂彥を、支那の子兒のやうに作り變へてしまつて、ポツポツ藝を仕込みにかゝつたのであつた。

浚はれてから、二ケ月の間、源は、殆んど晝夜の別なく、暇さへあれば、茂彥を責め苦しめた。彼の打ち振る殘虐な鞭が、まだ筋肉の十分に調つてゐない茂彥の幼い肉體へ、いかに慘酷な蚯蚓腫を作つたことであらう。

その日その日の源の苛責は、たうたう茂彥の體を、骨と皮ばかりに削り刻んでしまつた。

しかも、今夜は、いつもより一層手きびしい源の權幕である。それは賭博場で、一文無しにスツカリ取られてしまひ、その鬱腹が、八ツ當りに、茂彥に當り散らされるのであつた。

その、蟲の居どころの惡い源は、茂彥を床の上へ叩きつけてみたが、そして、例の鞭を、ヒユウヒユウ鳴らしながら、再び茂彥に迫つて來た。

鞭打たれる苦痛を思ふては、茂彥もヂツとしてゐられなかつた。彼はスツクと立ち上ると、殆んど夢中になつて裏口から飛出した。

「オヤ、この野郎、何處へ行きやがる」

源は、驚いて追駈けやうとしたが、醉つてゐたので、蹣いて倒れた。

彼が起き上つた時、茂彥の小さい姿は、轉がるやうに、チヨコチヨコと裏の原ツパを走つてゐた。

外は、眞晝のやうに、明るい月夜だつた。

源は、鞭を投げ棄てると、今度は、在り合した棍棒を振り上げて追つかけた。

茂彥は、向ふの丘の方へ、一目散に走つた。

ちやうどその時、丘の下蔭に、三四人の人影が見えた。

それこそ、誰が、茂彥に向つて救ひの手を伸べてくれた救ひの御手であつたのだ。その人影こそ、千賀中尉と、その部下の兵士であつた。

大橋外交部次長に歸國命令を發すか
釋放職員は歸國さす方針
滿洲國持久戰覺悟

廣田外相の肝入りで再開の氣運が見えてゐた北鐵買收交渉は逮捕職員の釋放に伴ふ條件に關し滿蘇兩國間の意見が合致せず再び停頓狀態に陥り、近く滿洲國政府では東京に會商のため出張中の大橋外交次長に歸國命令を發していよいよ持久戰に入るべく肚を決めたと傳へられてゐるが釋放條件と云ふのは滿洲國側は釋放職員をそのまゝ歸國せしめ後任を新に任命せんとしてゐるが、蘇聯側は釋放職員の歸國は承認するがその後任は事件發生當時蘇聯が任命した後任者を認めよと云ふにあり後任者の蘇滿兩國の任命問題で暗礁に乘りあげてゐるわけである

ボーズ氏に四都市の講習會を依囑

印度体育協會のエス、ボーズ氏はボデイ、ビルデイング体操を滿洲國に普及すべく先日來滯京中であるが當地体育協會同志の非常な歡迎を受け、全滿的に之が普及を圖ることゝなり、体育協會では來る七日より三日間づつ新京、吉林、ハルビンに於て右講習を行ふやう依囑し夫々準備中である因に滿洲國体育協會では此の機に於て極東オリンピック大會に加入せんとしつゝある印度の体育會との提携を固くし打て一丸となり、同大會參加に進まんとしつゝある模樣である

多門中將重態
胃潰瘍が昂じて

(東京國通)滿洲事變に勇名を轟かせた多門二郎中將は昨年秋豫備役に編入されると共に仙臺より上京澁谷の自邸で宿痾の胃潰瘍で靜養中であつたが、去月廿六日吐血したので同廿八日赤十字病院內科に入院療養中であるが、可成りの重態で家人は憂慮してゐる

本庄將軍に授爵奏請されん

(東京國通)滿洲事變突發以來約一ケ年に亘り關東軍司令官としての重職に當り全滿の匪賊討伐に、王道樂土の滿洲國建設に華々しく活躍した滿洲の父、現侍從武官長本庄繁大將の輝かしき不朽の武勳に對する行賞に就ては、陸軍省當局始め、宮內省で種々打合せてゐるが、一般論功行賞の終了後本庄將軍に對して、男爵を賜つた故武藤元帥、故白川大將と同樣授爵を奏請する模樣である

顏駐露支那大使 三日午後上海歸着

(上海三日發國通)駐露大使顏惠慶氏は三日午後五時半入港のコンテ、ロツソ號で上海に歸着した、二、三日休養の上南京に赴く筈である

五、一五民間 判決理由書
何れも情を知り加擔

(東京國通)五、一五民間側被告の判決理由書要旨は次の如くである

第一 橘は我國の行詰りは國民が愛鄕勤勞第一主義の精神を忘れ西洋物質文明に醉ひ政黨財閥は獨り私慾を是事とし、返つて勤勞國民階級を壓迫するものとし血盟團の蹶起するや非常手段を決意し古賀清志、後藤映範等と全部共謀の上犬養首相を殺害す

第二 大川周明は日本史を研究し日本主義を奉じたる所我が國の行詰りを感じ古賀清志等の計畫を聞くや非常手段に依るものなるを知りながら資金と拳銃を提供したい、又頭山秀三及び本間憲一郎も古賀より計畫を聞くや人命を殺傷するを知りながら拳銃を提供す

判決不服で控訴に決定
茨城縣法曹團

(東京國通)茨城縣法曹團は大川、本間、頭山、三氏を除く愛鄕塾關係被告に對する判決を不備とし被告の同意を得た上控訴するに決した

滿洲事件論功行賞の主なる顏觸れ

(東京國通)滿洲事件生存者論功行賞は四月上旬發令の筈であるが、主なる顏觸れは南次郎、眞崎甚三郎、本庄繁、荒木貞夫、松木直亮の各大將、植田謙吉、多門二郎、森連中將、長谷部照悟、嘉村次郎、板垣征四郎等二十一少將であるが、之等の中若干名は功一級又は旭日桐花大綬章の奏請が行はれる筈である

陸軍の全般的改革は必要だ
審議委員會は議會終了後設置
下院豫算總會陸相答辯

(東京國通)林陸相は三日衆議院豫算總會で政友會の陰山貞吉君から現在の常備兵力は近き將來に改正する意思ありやとの質問に對し軍政の一般に亘つて將來改正を必要とする旨の答辯を與へ陸相の態度を明らかにした、而して陸軍では曩に決定した軍政改革案は滿洲事件突發のため、その實施を一時中止したが、その後改善費によつて在滿兵力の增加、資料整備等の一部の改革は現實をみたが、滿洲國の獨立及び日滿議定書の締約に基いて滿洲國の國防に關する協同防衛等新情勢に對應する我が陸軍の全般的改革を必要とするため近く林陸相から右の趣旨を奏上して曩に決定した軍政改革案を一時打切り改めて常備兵力の全般に亘つて審議し、改革を行ふ方針であつてその委員會は議會終了後五日頃設置の意向である

共產匪の本據を突き潰滅さす
大瀬戸〇隊の殊勳

(局子街國通)我が快足部隊のため後方退路を斷れ大包圍網の中に陷り斷末魔の悲鳴を擧げ乍ら死の狂舞を演じて居る國境共產黨は刻一刻に迫る最後的瞬間を前にして內紛分裂至るところに起り流血し自らの墓穴を掘りつゝあり汪精縣中部地方を根據とする共匪金一派の如きは過日轉向者九百六十名(內十七名は妙齡の女黨員)を捕へ極寒四十度の寒天に一糸まとはぬ裸體となし汪河の銀盤上に嬲り殺しの極刑に處したこと判明附近の掃蕩中の人見部隊の大瀬戸〇隊長は激昂積雪の密林を縫つて行軍一日夜彼等の剿窟たる火燒舖を攻擊數時間の交戰の後三百五十名は大瀬戸部隊の軍門に降り殘り八十名は河を越えて逃走せんとして氷上の彼等の處刑した轉向者の屍體の上に折重つて悉く我が砲火の的となり終つたのは今回の討匪行第一の收穫である、尚この戰鬪で皇軍を案內せる延吉軍警四名は戰死を遂げた

滿洲通過モスクワへ
極東通米記者

アメリカ有數の極東通であるクリスチー、サイモンス、モンタユー紙記者デッス氏夫妻は今回モスクワ駐在を命ぜられ本三日午前當地通過ハルピンへ向つた

石黑中佐等無事蛟河歸還
吉林から太田氏急行

京圖線蛟河附近で匪賊五百名を集結歸順懲透中最後のドタン場に至り約變せる匪首太平の逃亡に當り拉致されたりと傳へられてゐた吉林軍長官石黑中佐以下警務指導官二名の消息に關し安否氣遣はれてゐたが二日午後當局に達した書面により一日午後九時ごろ無事蛟河に歸還した旨石黑中佐の書面によつて判明、依つて吉林から太田氏金〇〇圓を持つて急行した

京濱電車衝突
重輕傷者十五名を出す

(東京國通)數十年來の暖かさであつた東京は昨二日より三日朝にかけて大雪で文字通り銀世界と化した、これがため市內は交通事故頻出、京濱電車は正面衝突を惹起し重輕傷十五名を出した

デ盃戰の組合せ決定

(ロンドン二日發國通)デヴイスカツプの組合せは二日抽籤の結果左の如く決定した

△北米ゾーン
第一回戰 米國對カナダ
第二回戰 メキシコ對第一回戰の勝者

△南米ゾーン
第一回戰 ブラジル對ペルー

△歐洲ゾーン
第一回戰 スイス對印度、フランス對オーストリヤ(不戰一勝)チエッコスロヴアキア、ニユージーランド、イタリー、ドイツ、濠洲、日本
第二回戰 チエッコスロヴアキア對ニユージーランド、イタリー對スイス印度の勝者フランス、オーストリヤの勝者對ドイツ濠洲對日本

民間被告は全部控訴す
關係辯護士協議す

(東京國通)五、一五民間側被告は服罪せんと觀られて居たところ判決が豫期以上に重いので愛鄕塾關係十七名の辯護士は辯護士會館で協議の結果豫定を變更し全部控訴に決定した、依つて被告が獄中より控訴を取下げれば格別だが現在のところ控訴公判の審理を受ける模樣である

滿鐵辭令

四平街貨物方 事務員 酒井讓
新京鐵道事務所勤務を命す

首都近郊八縣の縣參事官會議開催

首都近郊八縣の參事官警務指導官會議は本日午前九時より午後四時迄新京地區警備司令部內で開催され、中央警備機關より關係者十數名出席、新京近郊の治安維持並に大典を控へた警備方針に就て種々協議する所あつた

米政府爲替整調
英政府と交渉開始

(ワシントン二日發國通)米國政府は弗價切下げの目的を達成するため近く英國と爲替整調に就き交渉を開始する事

政友中井君
五、一五民間被告判決で質問
衆議院豫算總會

(東京國通)三日午後の衆議院豫算總會は午後一時卅一分再開、政友會の青山憲三君漁業問題で質問

青山君 日ソ漁業條約改正に關する外相の所見如何

廣田外相 漁業問題解決については充分に研究をなし準備を進めてゐる

次で政友の大石倫治君米穀問題並に植民地に於て米消費增進策について質し、民政の土屋清三郎君婦人參政權問題にも觸れて當局の意向を問ふ、齋藤內務次官これに對し簡單なりと答へ、次いで民政の比佐昌平君、政友の陰山貞吉君等の質問あり

陰山君 現在の兵力は近き將來改正する意思あるか、十年度以降の兵備改善費は十三億六千萬圓十一年度三億七、八千萬圓十二年二億六、七千萬圓となると思ふが如何

林陸相 將來改正を要すると思つて居る

小野寺經理局長 滿洲事件その他が決つて居ないので豫算概算に關しては見當がつきかねる

と答へ次ぎに政友會の中井一夫君

本日の五、一五民間判決は軍部側被告に比し甚だ重い何故斯る差別待遇をなすか國民はこれを何とみるか

と追及、齋藤首相 政府としてもとくと考慮し置く

小山法相 判決の差別は避けねばならぬ、御說はよく承つて置く

林陸相 軍政權と裁判權とを同時に持つてゐることが國軍のために必要である

大角海相 軍法會議は獨立の權限でやつてゐるのでこれに口を容れる譯には行かぬ

と答へ、更に中井君質問を續け、六時廿四分散會した

治安維持法改正法案上提
三日の衆議院本會議

(東京國通)三日衆議院本會議は政府提出の治安維持法改正案が上程され論戰が期待されるので議場は頓に緊張、午後一時十三分開會、議事日程を變更し議事の進行に關して緊急質問のため同同の加藤鯛一君登壇

加藤君 齋藤內閣の重大使命たる選擧法の改正案は會期三分ノ一を過ぎたる今日漸く樞府御諮詢の手續を執つたことは如何に政府が怠慢であるかを如實に示すものである政府は果して今議會に提案する意思ありや

齋藤首相 極力は該案の提出を急いで居る追々提案の運びとなると信ずる

次いで日程に入り、治安維持法改正法律案(政府提出)上程、小山法相提案の理由を說明し、質問に入る

高見君(政) 我國體を疑ふものを斷乎處分するは、いさゝかも異論はない、然し生活難等から赤化する者に對しては社會政策を加味して取締りを嚴にするはよいが、純理論に共鳴して共產黨に入るものに對しては政府は果して如何なる對策を有するや

小山法相 理論上より共產主義を信奉するものに對しては、それ以上の理論を示して說論すれば轉向の望みがあるとの方針の下に司法當局は努力を續け、眞の轉向者に對しては起訴猶除のはからひを取つて居る

次いで政友會小林絹治君並に民政黨の比佐昌平君の質問あり、次いで政友會の久山知之君登壇

久山君 最近猛烈なる極右運動は忠君愛國の名にかくれ窮極に於ては共產黨と同一の目的に向つて居る、かゝる暴力をもつて國家の革命を招來せんとするものに對しては、法相は如何なる考を持つて居るか、更に嚴重彈壓の意思はないか

小山法相 當局としても共產黨の檢擧ばかりに努力して居るのではない

それより國同の松谷與二郎君登壇

松谷君 思想善導の具體案如何、彈壓はかへつて共產主義者を尖銳化させて居るのではないか

それより更に教育疑獄問題並びに長野縣下教員赤化問題につき鳩山文相の責任を追及して答辯すれば、議場稍騷然、これに對し小山法相及び鳩山文部次官の答辯あり、更に質問者あり治安維持法案は他の法律案委員會に各委員附託となし五時過ぎ散會した

滿洲氷上聯盟
世界選手權大會に代表派遣
目下準備委員會組織

(安東國通)滿洲氷上聯盟では來年度世界選手權大會に大體男三、女二を派遣することに決定しこれが準備のため委員會を組織し具體的方法を講ずることとなつた

人事往來

▲守口大佐(駐滿海軍部)以下二名三日午前八時三十分發哈市へ
▲ベッス氏(クリスチャンサイエンスモンタ記者)同上
▲ヤンビクタマン氏(駐連北總商業部主任)同上
▲ニユ、ウエル氏(獨逸テレグラフユニオン記者)三日午前十一時三十分發奉天へ
▲ヴエチタ氏(米國ニユーヨークタイムス記者)三日午後四時三十分發奉天へ
▲金井事務官(總務廳)三日午後七時三十分着大連から
▲都森參謀長(駐滿海軍部)同上
▲秋澤二等主計正(關東軍司令部)四日午前九時發公主嶺へ

ラジオ欄

五日(月曜日)新京
午後五時〇分 子供の時間(奉天より)
同 五時三〇分 ニユース(英語)
同 五時四五分 ニユース(鮮語)
同 六時〇分 ニユース(東京より)
同 六時二〇分 語學講座 高宮經逸 (滿語)講師
同 六時四〇分 語學講座 植松金枝 (日語)同
同 七時〇分 演藝(滿語)
同 七時三〇分 講演 滿堂 雙玉班
同 八時〇分 ニユース(滿語) 氣象豫報プロ予告
同 八時三〇分 時報(滿語)
同 八時四五分 ニユース(東京より) 氣象予報
同 九時〇分 演藝 長唄 連槃 富士田音志津 引續 翌日のプログラム

吉林からはるぐ 文選手が來征

新京側必死の策戰を練る 全滿かるた大會迫る

本社主催の全滿かるた大會もあと僅かに一週間を殘すのみとなり、全新京は勿論、沿線各地のかるたファンの血を湧かしてゐるが、既に本社で正式申込を受付けた吉林、四平街の意氣込みは實に素晴らしいものがありいづれも各十名ばかりが打揃つて來征することになつてゐる、殊に吉林からは滿鮮かるた界の第一人者として其の天才的技倆を謳はれてゐる文選手が家の子郎黨を引具して全滿選手權の榮冠をめざしてはるぐ來征することになつたことは一層地元新京側を刺戟して多大の衝動を與へてゐる、文君はその昔滿洲かるた界が華かなりしころに出場して一度もひけを取つたことなく、いつも優勝の榮冠を勝ちつづけた斯界の大強者であるがこれに對する新京側の顔觸れは中江（保線區）足立（新京驛）祝圓（滿電）宮本（市ヤ）野中（其々會社）、深澤（金融組合）熊代（緘事）等々の面々で榮譽ある優勝盃は是が非でも地元新京において奪はうといふにあり、寧ろ技量よりも意氣を以て當らうとするところに大に期待がかけられてゐる

かるた大會へ 賞品寄贈申込

來る二月十一日料亭偕花で開催される本社主催、全滿かるた大會は意外の人氣を得て各方面から多大の聲援を得てゐるが右大會趣旨に共鳴してわざぐ本社へ賞品寄贈の申込があり、本社でも快くお受けすることとしたが四日正午までの分は左の通りである

- 東二條通　金城靴店　お座敷用高級火鉢
- 吉野町一丁目　酒井商店　大黒葡萄酒大瓶二本
- 東二條通　西村洋行　姿見鏡一個
- 老松町二丁　天野商店　タオル一打
- 吉野町二丁目　マルカ商店　黑皮製スリッパ三箱

警乘員 近く配置さる

鐵路總局では最近列車事故の頻々として起るのにかんがみ乘客の生命保護と、列車の安全をはかるため京圖線、濱綏線、拉賓線およびその他の列車に滿洲國軍と昨年の駐滿日本除隊兵から〇〇〇名を募集警乘させることとして奉天で短期間の教育を行つてゐたが近く各線にこれを配置警乘させることとなつた

兇玉事件の 第二日公判續き

〔大連電通〕裁判長　これで殺つたのか

中薗　さうです

と述べ、十一時五十分一先づ休憩、午後一時廿分再開、青柳殺しは自分一人でやつたとぶちまけて、すつかり落着いた被告は、裁判長の訊問にもはつきりと答へる

裁判長　匕首を所持して以來青柳佐藤を殺害する意思はあつたのか

中薗　ありません

裁判長　兇玉に殺害すると云つたところ、同人も宜敷いと云つたさうだが

中薗　さうです

裁判長　それなら殺害の意思はあつたのではないか

中薗　おとなしく話をしない時はなぐらうと思つてゐました

とここまでも謀殺でなく兇行は偶發的であることを強調せんと試みる

裁判長　被告は青柳を刺した時兇玉は青柳に組付いてゐたさうだが

中薗　なぐり合ひをしてゐました

裁判長　死体には十八の傷があつて、被告が五つ突いたのなら、殘り十三は誰れが突いたのだ、本當のことを云へ

中薗　よく記憶はありませんが、私が突いたのだらうと思ひます

裁判長　兇玉が刀を貸せと云つた時、兇玉も突くのだと思つたか

中薗　さうです

裁判長　お前が刀を兇玉に渡して立關に降りる迄に時間があつたか

中薗　殆んどありません

斯くて裁判長は被告席に兇行當時のゴザを敷かせ中薗にどうして突いたかと當時の動作を實際に示させる

裁判長　誰れが先に二階に上つたか

中薗　私が先きだつた樣に思ひます

裁判長　二階に上つてから誰が責任を負ふかといふ話が出たか

中薗　私が一切の責任を負ふと申しました

裁判長　頸動脈はきれいに切れてゐるがお前が切つたか

中薗　私が切つたかも知れません

と曖昧ながら博士が兇行に關係なきことを述べ、これで一應兇行當時の審理を終つた

裁判長　女中の監視を命じたのは誰れか

中薗　私です

裁判長　お前はその時女中が知つてゐては困るから殺さうと言つたさうだが

中薗　それは死体を片付けた後に申しました

裁判長　勝美を呼んで女中のことを聞いたか

中薗　聞きました、女中はあまり良く知らない樣でしたけれども、私は不安でしたので女中と關係を付けて口止めしやうと云ひましたけれど、兇玉さんはこれを止めて滿洲チブス菌をチョコレートと一緒に喰はせて殺すからそれは止めよと云つたので止めました

裁判長　死体の傷口は何時縫つたか

中薗　その晩です

裁判長　死体の處分について相談したか

中薗　しました、ふとんカバーに入れて外に持出さうとしましたが、ばれ易いのでこれは止め、髮油を目、口鼻等に塗り、油紙に死体を包みました、而してトランクには入りませんし、フト新聞で知つたバラバラ事件の前例により死後十二時間を經過すれば硬直が直ると聞いてゐましたので、青柳の片足を背にかけ腹部を踏んでまげて縛りました、それは私にはやれなかつたので兇玉さんがやりました

裁判長　死体はそれから何うするつもりだつたか

中薗　屋敷内の倉庫の床下に埋める相談をして見に行きましたが、コンクリートのため今で掘れなかつたので止め、次で臺所に埋めやうと板をめくらうとしたが出來ないので止めました

裁判長　七日被告は勝美と心中を企てたさうだが

中薗　それは八日です

と兇行以來良心の苛責に責めさいなまれ、此日旅順で勝美と心中して罪を淸算しやうと遺書迄書いた芝居がかりの心中準備を陳述

裁判長　滿洲お君の家を訪ねた顛末は

中薗　豫ねて知合のお君の家に行つた時、偶然此處に死体を埋めてやらうと考へお君に他所の犬を殺したからお前の家に埋めさせて呉れと頼み、お君も承知して呉れたのでその日二人で出かけ、スコップで床下を掘つて見ると樂に掘れました

裁判長　兇玉にはそのことを話したか

中薗　八日電話で打合せ、九日兇玉が外に行つたところ勝美と女中は外出してゐましたので屍体をトランクに詰め一臺馬車を雇ひ引越荷物の如く裝つて出ました

裁判長　穴は誰が掘つたか

中薗　初めは私が掘つて更代で掘りました

裁判長　兇玉とは何處で別れたか

中薗　西廣場で別れました

裁判長　屍体の處分に就き兇玉と相談した時外に遺棄場所を選定したことはあるか

中薗　旅大道路の淩水寺分岐點附近が良いと兇玉さんは競馬場附近が良いと云ひました

裁判長　どうしてそれを止めたか

中薗　まずいと思ひました、內地行きの定期船に持込み海中に棄て樣とも相談しました

裁判長　滿洲お君にチブス菌を飲ませたら高熱でしやべる樣なことはないかと兇玉に言つたか

中薗　そんな事はありません

裁判長　十日被告は菌を貰ひに行つたさうだが呉れたか

中薗　貰ひました

裁判長　それをお君に飲ませたか

中薗　自分で飲むつもりでしたが恐ろしくて止めました

裁判長　それは實際は菌ではなかつたさうではないか

中薗　私は菌だと思つてゐました

次で勝美との道行きから逮捕される迄の模樣を辯り、次で裁判長は勝美に起立を命じ對質訊問に入り

裁判長　パツトと短刀を持つて來た時、青柳と佐藤を殺すためだと云つたか

勝美　始めはおどす心算だと云つたと思ひます

裁判長　後で殺すと云つたか

勝美　左樣で御座います

裁判長　お前はそれに賛成したか

勝美　はい

裁判長　夫は刀を貸りて青柳をやつたと聞かなかつたか

勝美　何も聞きません

裁判長　青柳をやッつける相談は何處でしたか

中薗　勝美の家を出てバスの停留所迄行く間です

勝美　私はその間は何も聞きません

裁判長　兇玉の手の血は?

勝美　兇玉自身の血であると思ひます

裁判長　中薗の云つたことに違ふ事を全部云つて見よ

勝美　女中が知つてゐるだらうから殺さうと菌が云つたのは事實です、私は女中にもチブス菌をのませることにも反對しました

と述べ、三日間に亘る事實審理を終り、次で田中陪席判事は中薗の意思を代表して

裁判長　中薗は青柳を刺す時兇玉に制止された覺へはないか

中薗　ありません

裁判長　協力して呉れてゐるといふ氣持はあつたか

中薗　ありました

裁判長　中國が青柳と佐藤を殺すといふ氣持はずつと前から紹いてゐたが

勝美　さうだらうと思ひます

右終つて高井檢察官は兇行當夜三人が組合つた情況につき細かく質問し

檢察官　三人組合つて二階降口にかかつた時中薗が何故止めるかと云つたのを聞いたか

勝美　下の方でその聲を聞き次で「見ては破滅だ」といふ玉兒の聲を聞きました

次で檢察官は中薗に對し兇行後刀を兇玉に渡したと云ふことについて質問し、同五時半と閉廷した

京圖線明月溝驛で 列車衝突 即死五名

四日午前三時ごろ京圖線明月溝驛構內で淸津發五十二列車の先驅裝甲車が同驛に進入の際同驛に停車中の貨物機關車に激突轉覆し裝甲機關車の乘務員五名は即死した、列車は三十分にして復舊した、原因は目下取調べ中

恩赦令公布は 二月十一日

〔東京國通〕政府では宮中喪明け、民間五、一五、事件判決終り司法省でも近く調査完了するから恩赦令公布は紀元節の二月十一日と內定した、恩赦範圍は前例を酌斟し昭和三年の御大典當時の恩赦に準じかなり廣範圍の恩赦減刑復權で勅令で即日公布と方針決定した

深夜の— 職場襲擊 (F)

拔身の拳銃を 胸元へ!待て!

警官の卷　非常警戒

午前一時日本橋派出所を襲擊した、岡さんが獨りで忙しさうに日誌をつけてゐる、フト黑板を見ると日本橋通り大利公司三人組強盜の件と書かれてゐる

「又強盜ですか」

「イヤあれは先日のですよ」

「然し他の方は?」

「今警戒で出てゐます」

「非常警戒ですか?」

「エー四人出てゐます」

「何か事件があつたのですか」

「イヤ、年末警戒です」

「四人も出てゐては交替も出來ませんね」

「エー一時間交替に寢ることになつてゐますが、非常警戒のときはそれも出來ません」

「ここは場所柄事件が多いでせう」

「エー新京ではここが一番です、次が朝日通り、祝、大和通の順です今晩も今までに交通事故三件、料亭カフエーの喧嘩や、その他が五件ありました」

「然し女が時々訪ねて來るので良いでせう、何でも時々用事もないのに電話をかけたり呼出したりして素見すさうですが」

「イヤ、そんなことはありません、そんなことをしてゐると誠です、油斷してゐると本署から巡視が來ますからね」と辯明これ努める

×……×

「非常線はどこに張つてゐるのですか?」

「さあ記念館裏邊りぢやあないですかね」

そこで記者は、派出所を出て後をついて道を暗い記念館裏に……

黑い影がウゴメイてゐる、記者が近付くと拔き身の拳銃をつきつけた

「待て!!!」

「ハッ」

背筋を冷いものが走つた

「誰だ!!!」

「新京日日の職場襲擊隊です」

「ああさうですか失禮〱」

「何か良いものがかかりましたか」

「一向かかりませんね、醉拂ひが通る位なもんです」

と向ふから二人の男が歩いて來る、獵人らしい四人の警官は拔き身の拳銃をつきつけた

「上れ」

「アイヤー」

「誰だ」

「探——」

二人の警官は三尺ばかり離れて拳銃を擬してゐる、他の二人は件の二人の上衣から下衣まで全部手を觸れて身體檢査をした（寫眞は不審訊問）

恩赦令の範圍

〔東京國通〕政府は近く司法省立案の恩赦に關する勅令を閣議決定上奏御裁可を經て十一日發令するが原案は左の樣な減刑令と復權令である

一、減刑は二月十一日前に刑の確定せるものとす

一、死刑の者は無期懲役とす

一、無期懲役は二十年の有期懲役とし無期禁錮は二十年の有期禁錮とす

一、有期懲役又は禁錮にして刑の執行を始めぬ者は刑期の四分の一を減じ、刑執行を始め刑期の半分になつたものは殘りを半分に減ずるものとす

一、特別の罪の者は減刑せず

一、復權も二月十一日より以前の者に對して付ふ

右の結果、死刑となつた佐郷屋留雄は無期懲役九、一五事件の軍部關係は減刑を受ける治安維持法違反者も減刑となるが、皇室に對する罪尊族親殺人罪、强盜の罪、軍規保護法違反、惡質の通貨僞造罪は恩赦を受けない

人氣彌や湧く 敵は太平洋!

新京キネマ連日滿員の盛況

待望の大海戰映畫『敵は太平洋』は周知の如く本社後援を以て昨三日より新京キネマに公開されたが日本海國男子の意氣血湧き肉躍る悽愴な場面帝國歐白隻の膿艦堂々海を壓し爆擊機戰鬪機其他飛行機活躍巨砲の亂射魚形水雷の發射行動等未曾有の海戰場面〇〇〇を相手として帝國大捷に至る場面壯觀は立錐の余地無き大入の觀衆を魅了し白熱的人氣を呼んで居る彼の滿洲娘お辰の敵地において活躍久住大

列車中の 盗難

去る二日午後十時新京驛午後十時發旅客がオーバを盜まれた旨を列車ボーイに同日午後十時五十分ごろ届け出た、被害者は原籍奈良縣現住所奉天春日町三丁目時計商中谷宇三郎氏（四四）で、盜難品は冬オーバ桃色ラクダ地に白黑の斑點のある綿毛皮裏付水獺襟付時價二百圓の品物で本人の申出によると犯人は被害者が新京驛で列車停車（午後九時五十分から十時まで）の中同列車二等寢台車上にオーバを置き隣座談席で見送人と話中これを奇貨として竊取したものらしいと

高女五年生 警察見學

三日午後二時から新京高等女學校五年生五十名が卒業を控へ社會學研究のため新京署を訪れ各係につき參觀をなし高山署長から警察署の任務並に復雜な事務の說明を聽き終つて各係主任から詳細に事務の說明があつた

けふ 立春 零下十七度六

今日は立春!鬼（陰氣）を退け福神（陽氣）を迎へる節分によつてめくられた、カレンダーのうえでは三四年の春が訪れたわけである今日の溫度が零下十七度六で本年に入つては三十一日の十七度一に次ぐ高い溫度朝の陽ざしにも漸く和かな微笑をふくみ風にまだ劍をふくむとはいへなんとなく春の香をもたらし初めて永い滿洲の冬にも重い上著一枚ぬいだやうな朗かな感じをあたへるやうになつた

街の日記

人騷がせな酌婦

城內西五馬路料亭待月こと原淸一氏方抱へ酌婦文香こと郡築タマコ（二六）は三日午前十時ごろ買物に行くと稱し家を出たまま歸宅せざるため家人は新京總領事館署に搜査方を願ひでたが四日午前一時三十分ごろほかりつと歸宅した

新京驛長招宴

新京驛長高澤☆太郎氏は三日午後六時からヤマトホテルに各代表百余名を招待、恒例の新年宴會を催したが宴酣なる頃高澤氏の挨拶があり之に對し來賓を代表して大村關東軍交通監督部長謝辭を述べ寬いで歡談八時頃散會した

拾ひもの

▲八島通四十番地石川洋行方加藤良房氏は三日午後十一時ごろ同洋行前路上で黑皮製二ツ折財布一個在中現金一圓十七錢を拾つた

落しもの

▲梅ケ枝町三丁目大森醫院內藤岡善氏は三日午後七時三十分ごろ自宅前で刺繡入り二ツ折財布一個現金六圓七十錢余を落した

▲吉野町三丁目八番地ノ二田町テルさんは三日午前六時三十分ごろ自宅前から浪速町二丁目に行く途中羽二重シボリ風呂敷包一個在中財布現金三圓、戶籍謄本一通認印一個封書一通黑綠目一個を落した

盗難屆

▲三笠町一丁目十六番地德島豐作氏所有自轉車一台を三日午後一時ごろ朝日通五十九番地先路上で竊取された

尉吉野中尉の奮闘そして殊勳者の遺骨を抱いての悲しき凱旋は全く他に見られぬ場面名映畫である

尙續いて同時に上映する西洋物—タイガーシャークは怒濤逆巻く大洋の眞只中に於て餓ゑる虎鮫と人間死の鬪爭決死的證諭映畫であり之に時代劇をも加へての名映畫揃ひのことさて絕對見逃せぬものとして人氣を博してゐる

僞造五圓紙幣

二日午後七時ごろ二十六歲前後の內地人男が新京百貨店洋品部渡部友吉氏方を訪れ洋品四圓を買ひ五圓紙幣を出し一圓の釣錢を受け取り店を出たが客が歸つた後で五圓紙幣を見ると一圓紙幣を五圓に僞造してゐることが判明し直に新京署に屆けでた

天氣と氣溫

明日の天氣北西の晴けふの氣溫最高零下六度五最低零下十七度六

慶安異聞 艷魔地獄（百六十五）

（講談化）玉水三郎 （畫）長谷川小信

暴漢？ 紀州公 結納延期

不可解（二）

奥村權之丞は、昨日から三つの疑問を抱くやうになつた。

一は道瀬山の網で、何者とも知れず、五人の惡漢に襲はれた事。

一は丸橋忠彌が紀州家へ奉公替へせよといふ事。今一つは大川家との緣談を、本人の自分に一言の挨拶もなく、媒酌人立花掃部が結納延期をした事……何としても其眞相を知るに苦しんだ。

先づ第一に今朝會ふ約束の、丸橋に其一を問ふより外はない。

金井半兵衞には、緣談に就ての眞否を調べるからと今日一日の猶豫を求めた。

半兵衞は、父が莫逆の友であり、今日まで長上として仕へ、且朝夕世話を受けてゐる大川郁之進に對し、奥村の返辭によつては、立派な申開きが立つので、大いに喜んでゐた。

それから半時程經て丸橋忠彌は、悠々道場へ來た。

「オ、奥村氏、夜前の約束、遲刻して濟まんであつた」

「コレハ〳〵先生、前晩は夜更けて、御休息のお妨げ致しました」

「何の〳〵、あれから又一酌やつたので、今朝は朝寢してな、アハヽヽヽ」

それから奥村を麾いて、奥まつた一室へ連れて來た。

人なきを見定めた丸橋は、低聲に語り出した。

「夜前突飛な申分で、嘸貴殿案外に思はれたであらうが、實は貴殿の器量を見込み、由井氏が是非紀州家へ推擧致したい。紀州家に於ては唯今有爲の人材を集めて居るが、奥村氏程の若侍はない。伊豆守殿に仕へらるゝよりは、お家柄は申すまでもなく、又祿高を厚くお召抱へ相成る事ゆゑ、貴殿お身のお爲と斯樣に申される。拙者に於ても勿論同感、何と御奉公替への御所存はないか。改めてお訊ね申す」

前夜の言葉を稍詳細に說明したので、權之丞は恐縮して、

「ハツ、有難い仰せにござります。文武兩道何れも未熟の若年者を、兩先生の過分なる御賞讚。且尊きお家柄への御推擧、早速貴命に從ふべき處、手前は駿州淺野家の出、兄が亡父の跡を襲ひましたれば、手前は罷り出府し、松平家に仕へ居りますが、中君に於かせられても、不肖のそれがしに百石の高祿を與へられ、優遇を受け居りまする事ゆゑ、手の裏返す奉公替へもなり難く、何卒此御推擧は今日より一ケ月間、御猶豫を願ひまする。一應は廣島なる兄にも申聞けたる上に致したく、此段先生より由井先生へも、然るべくお傳へ願ひまする」

丸橋は不興顏で、

「奥村氏、貴殿は常に仰せらるゝ處では、何事も一身上總て、自分一存で決する由を申され、現に金井半兵衞お勸めの緣談も、兄上へのお問合せもなく、御一存で見合もなされ、御婚約も成立つたと承はつて居る。それに何ぞや此一儀にのみ限つて……」

「イヤ〳〵丸橋先生、御道理の仰せにござりますが、松平伊豆守公へ推擧致し吳れたるは、兄が親友、同じ駿州藩士で伊東祐五郎と申す者、それへの義理もあり一應は……」

「フーム、然らば仰せの通り、一ケ月の間をお待ち申さう。成るべく早く右お聞かせ下さい」

月曜 丁未 先負 執 張宿　二月五日 舊十二月廿二日

●一白の人 氣力衰へて半途に倒れ再起覺束なき危險日 乙と辛と壬が吉

●二黑の人 萬事緩々と進めば安全なれど急げば蹉跌す 丙と丁と申が吉

●三碧の人 勢に乘る時は急轉を來たすことあるべし 丁と辛と亥が吉

●四綠の人 一家心を協せて家業に勵まるべし他事は凶 丙と辛と戌が吉

●五黃の人 成功を願はゞ急がざるに如かず飲食亦注意 己と戊と寅が吉

●六白の人 信用を確保し人和深厚なれば益々向上發展 乙、申と庚が吉

●七赤の人 心に緩うち氣を引締めて努むれば願望叶ふ 申と辛と寅が吉

●八白の人 喜憂交々至る半吉半凶の日旅行轉宅普請凶 甲と申と戌が吉

●九紫の人 長上に逆らひ身の不安を招く日愼談控へよ 丁と戊と壬が吉